バカとテストと龍殺し

tak

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。
この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
バカとテストと龍殺し

【Ｎコード】
Ｎ８９８１Ｙ

【作者名】
ｔａｋ

【あらすじ】
この話は、『バカとテストと召喚獣』の二次創作です。
オリ主が、明久達とバカな日常を過ごしていく話です。
この話は、処女作なので温かく見守ってください。

プロローグ（前書き）

学校の友達に勧められて書いてみました。
かなりの駄作だと思いますが温かい目で
見ていただければ幸いです。

プロローグ

桜が舞い散る所にオレ神代祐紀(かみしろゆうき)は香港から帰ってきた。
小学生の時にに住んでいた
　この町が懐かしかった。
そんな感傷に浸っている時に
電話がかかってきた。
　御神美沙斗(みかみみさと)さんからだ。
　たぶん、無事に日本に着いたかの
　確認だろう。
　「もしもし、美沙斗さんですか？」
「無事に日本につきました。」
「明日から文月学園のほうにお世話になります。」
「まあ、久しぶりの日本なので、楽しみながら過ごしますよ。」
「明日学校が有るので、ここらで失礼します。」
さあ、遅刻しないように早く寝なきゃいけないな。
その前に荷物を片付けないといけないし結構大変だ（汗）

～3時間後～

やっと終わった。
まあ、もともと荷物は少ないし片付けるのにも
そんなに大変じゃ無かったし！
そんなんで今度こそ寝よ。

主人公紹介！

名前　神代（かみしろ）　祐紀（ゆうき）

性別　男

年齢　１６歳

身長　１７５？

体重　５５キロ

容姿　目にかかる位の髪の長さ
　瞳は漆黒で、髪は黒に近い茶髪

性格　人との付き合いはいい。
　しかし、だれよりも心に闇を抱えており
　苦手としている人には容赦がない。

得意科目　世界史、数学

苦手科目　古典

召喚獣　祐紀を小さくしたような姿。
　得物は小太刀の２刀と２丁の拳銃
　拳銃は、デザートイーグル
　その他に飛針と鋼糸の暗器

腕輪　？

その他　父とは8年前に香港のシンジケートの『龍』
の爆発テロによって死別。
母とは5年前に病気によって死別。
中学からは、香港の『香港国際警防隊』
通称『警防隊』に入る。
そこの4番部隊長の御神美沙斗（みかみ　みさと）
によって御神流を教えてもらう。
実は、木下家とは、日本にいる時に関わりがあった。
優子と秀吉は幼馴染み。
妹が一人いたが、自分が香港に行くため木下家に預けた。
そのため、妹に憎まれていると思っているが……
御神流のほかに、神代流という退魔を専門としている
流派を修めている。

主人公紹介！（後書き）

主人公について書いてみました！
次回からは、更新不定期になりますがよろしくお願いします。

御神流について（前書き）

祐紀が使う剣術の詳細です。

御神流について

御神(みかみ)流について

正式名称　『永全不動八派御神真刀流小太刀二刀術』

使い手　御神美沙斗　神代祐紀

使用武器　小太刀　飛針　鋼糸

概要　二本の小太刀をメインの武器とし、さらに飛針、鋼糸などの暗器を駆使する殺人術。
代々御神家の人間が継いできたが、『龍』のテロにより一家殲滅。
現在の生き残りは、美沙斗をいれ４人。
御神流には、表と裏があり、表は護衛など、裏は暗殺を家業としていた。
美沙斗は裏の人間なので、御神流・裏を修めている。

技名　斬…御神の基本技の一つ。引きつけるように切り、鋭さを増す技。
極めれば、鋼鉄を奇麗に切ることができる。
徹(とおし)…御神の基本技の一つ。対象に衝撃をダイレクトに徹す技。
刀だけでは無く、素手でも使える。
極めれば、蹴りにも込めることが出来る。

貫(ぬき)…御神の基本技の一つ。相手の防御をこちらが見抜き、防御と防御の間に攻撃を通す技。
祐紀は、3連続までしか打てない。

神速(しんそく)…御神の奥義之歩法。
瞬間的に自らの知覚力を爆発的に高めることにより、あたかも周囲が止まっているかのように振る舞うことが出来るようになる。
使用中は、視界がモノクロになる。
ただし、当然ながら肉体的に過大な負荷をかけるため、多用はできない。
また、動作そのものが高まった知覚力に着いてこられないため、自分そのものもスローモーションで動いているように感じられる。
当然自身にものすごいから、1回に4秒、1日に5回までしかできない。
神速の2重がけをすることもできる。
神速と併用することができる。

虎切(こせつ)…一刀での、高速長射程の抜刀術。
射抜(いぬき)…御神流裏の奥技之参。超高速の突き技であり、なお、突いた先から様々に変化する。
御神流奥義の中で最長の射程距離を誇る。
神速と併用することができる。

美沙斗の得意技。

薙旋(なぎつむじ)…御神流奥技之陸

右の抜刀から始まる必殺の４連撃。

神速と併用することができる。

雷徹(かみなりどおし)…徹を2重がけして放つ技。

虎乱(こらん)…二刀で放つ連続技。

鳴神(なるがみ)…表の奥義の極み。

美沙斗が辿り着いた御神の境地。

現在では美沙斗と祐紀しか使えない。

祐紀の場合は、特殊条件下でしか使えない。

閃(ひらめき)…徹などの基本技の奥にある裏の奥技。

心(しん)…目を頼らず、音と気配によって相手の居場所を知る技。

御神流について（後書き）

短いですがよろしくお願いします。

第1話

これから2年間通うことになる学校を目指して歩いていた。
学校の名前は、文月学園といい世界初の召喚獣システムという代物を使っている。
学力低下の一途を辿っている世界にたいしての対策らしいが…
ここからは香港で調べたことだが、この学校は試験校でスポンサーがたくさんいる。
そのスポンサーの中に『龍』が関わっている企業が有るらしいと。
それはかえって良かったとマジで思う。
もし怪しい企業を発見できたら、美沙斗さんに報告して調べてもらう。
もし、クロなら4部隊全員でその企業に攻めにいけばいい話だし。
こんなことを考えていたら、いつのまにか校門の前についていた。
秀吉や優子たちが元気ならいいや。あいつらは俺のことを恨んでいるだろが…
そんなこんなで立ち止まって考えていたらいとりの先生がきた。

祐紀ＳＩＤＥ

「おはようございます」
目の前の教師に挨拶をした。（一応）
「生活指導の西村宗一だ。貴様が神代祐紀で間違いないな」
「はい。間違いありません」
「お前は、転校生だから自動的にＦクラスだ。何か質問は？」
「ありません」
そう言い西村先生は歩いていった。
目の前の西村先生の特徴は肌が黒く短髪であり、体ががっしりし

ていた。
しばらく歩くと職員室ぽい？部屋に着いた。
「お前はここで待っていろ。」
そう言うと西村先生は部屋の中に入っていった。
～5分後～
突然、扉が開いた。
西村先生の他にもう一人の先生がいた。
「彼は、Ｆクラスの担任の福原先生だ」
「よろしくお願いします。」
そう俺が言うと福原先生はこう言った。
「これから教室に向かいますので、着いたら自己紹介をしてください。」
さて、Ｆクラスはどんなところなのかな？

明久ＳＩＤＥ

昨日Ｄクラス戦が終わり教室が賑やかなのでその話の中心は、今日入ってくる転校生についてだった。
須川君の話によると女子らしい。
「それにしても遅くない？雄二」
「多分、転校生に指示をしたりしているからじゃないのか？
てか、バカのお前でもこれくらいのことは分かれよ。
まあ、お前の低い頭脳で理解できるかわからないが？」
「それ位の「先生が来たのじゃ。」……」
後で雄二を殺してやる。
と考えてたら教室のドアが開いた。

祐紀ＳＡＤＥ

教室に入る前にある程度の酷さか考えていたが、

今いる教室の状況をあらかじめ想像できる人間なんているはずが無い。
腐った畳にちゃぶ台？という、今の日本にある代物では無い。
「では、自己紹介してください。」
教室の状況で顔が引き攣っていたのは、何かの間違いだ…
自己紹介をしなくちゃ。

「初めまして。神代祐紀です。好きなように呼んでください。
中学1年生から香港に行っていたので久しぶりの日本です。
趣味は体を動かすこと、特技は剣術です。
これから1年間よろしくお願いします。」
まあ、こんなもんだろう。
自己紹介を終え先生からの指示は席に座ることだった。
正直もうどこでもいいや。
空いている席に座っていたらＨＲは終わっていた。
こちらに向けられている視線に気付かずに……

第1話（後書き）

誤字脱字があれば教えてください。

第2話（前書き）

祐紀と秀吉の関係が明らかに…

第2話

秀吉ＳＩＤＥ

わしは夢を見ているのかのう？
わしらの前から消えた祐紀が今目の前にいるからのう。
早く話したいのじゃ。そして、今までやっていた事を聞きたいのじゃ。
そんな事を考えていたら既にＨＲが終わっていた。
明久たちが祐紀のところにいるのじゃ。
わしも行こうかのう。

祐紀ＳＩＤＥ

ＨＲを終え最初に話かけてきたのは、坂本雄二と吉井明久だった。
「俺はこのクラスの代表の坂本雄二だ。
雄二でも代表でも好きなように呼んでくれ。」
「よろしく雄二。」
「そして僕は、吉井明久。『学年一のバカだ。』
何言っているの雄二。」
「お前の評価を間違わないように言っているだけだが？」
「雄二、殺してやる。」
「やめなって雄二に明久。」
そんなやり取りをしていたら他の人達がきた。

そんなかに幼馴染みが一人いたが。
「久しぶりだね、秀吉。」
「「「え……」」」
「そうじゃの、5年ぶりかのう？」
「二人とも知り合いなの？」
「ああ、小学校の時家の近所で幼馴染みだった。」
「まあ、今はこんな話はいいだろ。」
「まあよろしく秀吉。」
「よろしくなのじゃ。」
そんな感じで自己紹介タイムはすぎていった。

正直こんなクラスがあるとは思わなかった。
まさかBクラスに試験戦争で勝っていたとは。
雄二の話を聞く限りでは、クラスのエース格は全員
特定の教科や技術がAクラス並みという事。
後、姫路さんは本来ならAクラス次席なみという二点。
まあ、次に攻めるのはAクラスって聞いているが、
そう簡単に行けるところではないはずだ。
秀吉の話によると、優子と梓が在籍しているクラスと言っていた。
まずは、次の試験戦争の時までにテストを受けなければならないが。

こんな事をしているうちに放課後になった。
「秀吉。少し来てくれる。」
「なんじゃ？」
「今日、優子たちと一緒に俺の家まで来てくれないか？」
「いいけどどこじゃ？」
「明久と同じマンションらしい。」
「わかったのじゃ！」

「また後で、家で待っているよ。」
と言い残し家に帰っていった。

第2話（後書き）

誤字があれば、感想に書いてください。

ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n8981y/

バカとテストと龍殺し

2011年12月1日01時49分発行